

会 議 議 事 録

1 会議名	長岡市スポーツ推進計画策定に伴う 第1回策定検討委員会及び第1回ワーキング部会
2 開催日時	令和8年3月23日（月）14：00～15：30
3 開催場所	さいわいプラザ4階 大ホール
4 出席者名	策定検討委員：7名 西原康行委員長、淡路弘幸副委員長、川上美彦委員、 土江由紀委員、松永哲一委員、室賀大樹委員、山岸麻美委員 オブザーバー：株式会社ジャパンインターナショナル 総合研究所 2名 ワーキング部会（長岡市）※同不順 福祉課：清水係長 市民協働課：近藤主任 地域振興戦略部：佐藤係長 ミライエ長岡企画推進室：水品係長 子ども政策課：木村課長補佐 学校教育課：石川室長 観光企画課：天野係長 人材・働き方政策課：小畑係長 健康増進課：横山係長 事務局：8名 小池市民協働推進部長、中山スポーツ振興課長、佐藤課長補佐、渡辺係長、菊地係長、鷺尾係長、池田主査、豊田職員
5 欠席者名	3名（糸満盛人委員、田中佳苗委員、綱紀子委員）

6 議題	1 次期長岡市スポーツ推進計画の策定についての説明 2 市民アンケート結果についての説明 3 現行計画の進捗評価についての説明
7 審議結果の概要	・議題1、2及び3について、事務局より説明を行った。 各委員から意見が出された。
8 審議の内容	
委員長	これより議題の審議を行います。
(議題)	(1) 次期長岡市スポーツ推進計画の策定についての説明 (事務局説明)
委員長	(1) 次期長岡市スポーツ推進計画の策定の説明について、 ご意見はないでしょうか。 (意見なし) では、次の議題にうつります。
(議題)	(2) 市民アンケート結果についての説明 (事務局説明)
〇〇委員	このアンケートを3,000名の方に郵送ということだが、ランダムに送られているのか。あと、3,000名に対して941名の回答という数字は、長岡市の人口から考えるとどれくらいの意見が取り込めたのか疑問。
事務局	3,000名は無作為抽出で取らせていただいた。ある程度年代ごとに偏りが出ないような工夫をしている。それから30%程度の回収率については、統計的にこういった資料を使う上で、十分信頼性の高い調査結果であるという確認を取っている。
〇〇委員	年代を回答するところで、30代40代の方のパーセンテージが高い。各世代同じように取られたのか。

事務局	アンケートの送付については、各年代ある程度同じ数で送付している。その中で30代40代の回答が多かったという結果。
〇〇委員	回答率がもう少し増える工夫があればいい。私たちも、全くスポーツに関わっていない方の意見がすごく聞きたい。どうやったらスポーツに関わってくださるのか日々考えている。なぜできないのか、そのとっかかりがどこかで見つけれたら、いろいろ進められるのではと思っている。なので、いろいろな方の意見を聞いていただきたい。
委員長	郵送したということか。Webは。
事務局	市で持っている情報から無作為抽出して、アンケートを郵送。Webで回答していただいた。
〇〇委員	子育ての駅で保護者の方々の様子を見ると、アンケート結果は確かにその通りだなという数字だったのではと思う。そもそも時間がない保護者が多いというのと、最初に子育て支援センターが建ち始めたのが大体15～20年前くらいだが、その当時よりもさらに今制度は整っているにもかかわらず、自分のために自分の時間を使う事に引け目を感じているという声は結構聞く。子どもを預けてまでスポーツをする必要があるかと言われると、そこまで頑張れないという声もまだまだ強くある。社会が変わってきているにも関わらず、そういったところはたくさんある。ただ、アンケートにもあったが親子一緒にあればやりたいという声もたくさんある。例えば子育ての駅でヨガ教室や、骨盤体操をやるが、たくさんの親子が参加してくれる。その間子どもは託児ではなく、私達保育士がふんわり見守ることでお母さんが体を動かしている横にいる。全ての子どもの駅でそのような体制をとっているのではと思う。そういう環境があれば、運動したいけど出来ないという方は減ると感じている。ただ一方で、託児をつけることで産後鬱など防止になるいいきっかけになるだろうとも感じている。男性の育児休暇の義務化で、男性1人で子育ての駅を利用したり、夫婦で来られることもたくさんある。その中で結構ストレスを感じていらっしゃるのも現実なので、あえて子どもを預かって、夫婦でリフレッシュする機会があればいいのでは。

委員長	月1回以上運動していない理由と、運動しやすくなる取組みのクロス集計の結果を見ると、育児が忙しい方は「親子・家族で一緒に楽しめる」というのが66.7%で一番数字は高い。やはりそういう環境が合うということと、子どもを預かってもらって親御さんが楽しむというのも数字で出てきていると思うので、そういうのも考えていかなければならない。
〇〇委員	7割以上の方が運動が「好き」「やや好き」と言っているが、なかなか運動スポーツに結びつかないという現状がある。スポーツが少しハードルが高いのでは。スポーツ協会としても、スポーツの持続可能性の向上をいろいろ考えている中で、多世代というキーワードは非常に大きいのかな、と思う。自身で主催している柔道のスポーツクラブは、最初子ども中心でやってきたが、だんだん親も興味を持ち始めて、親子で参加するようになってきた。輪が広がっていくというのは、肌で感じている。次の計画の中では非常にキーワードかなと思っているし、親子、家族と一緒に楽しめるということが非常に大事。
委員長	やはり多世代というのをキーワードにしていくことで、持続可能な環境というのが出来てくると思うので、それを参考に次の計画の中に盛り込めるのでは。あと、クロス集計は断片的ではなく、理由がよくわかってくる。例えば世代ごとに分析などもっと柔軟に見ることができるのか。
事務局	そうですね。厚い冊子では年代別でもクロス集計している。もし何かあればおっしゃっていただければ出すことが出来る。
委員長	分かりました。ありがとうございます。 (2) 市民アンケート結果の説明について、他にご意見はないでしょうか。 (意見なし) では、次の議題にうつります。
(議題)	(3) 現行計画の進捗評価についての説明 (事務局説明)
〇〇委員	私自身が現場で指導している中で最近高齢者の方で免許返

	納や更新しないということで参加したくても出来ないという方が増えてきている。中学校や小学校の現場でも週1回しか保護者の送迎が出来ないが、保護者負担がなくて送迎できればもっと参加したいという声もある。「する」スポーツと送迎などの「支える」スポーツがうまくマッチングできると、より参加できる人が増えてくるのでは。
委員長	高齢化による免許返納により行動範囲が狭くなることがあると思うが、これは全国的な課題だと思う。部活動地域移行も、子ども達をどうやって送迎するかというのは課題。
副委員長	「育てる」スポーツの推進の指標に関わってくると思うが、見てドキッとした。部活動地域移行ということで、市教育委員会とタッグを組んでやってきたが、実は子どもに問題があるのではなく、それに関わっている大人の問題だということでハードルの高さを感じている。自分もそうだったがやらされた世代に育った大人は、この時代の変化についていけない。本当に子ども達が可愛くて、ちゃんと育てていくんだという気持ちの表れかもしれないが、子ども達の人権を意識したところまで関わるが出来ない大人がいるというのが問題点。自分も市と一緒にやらせていただいたが、長岡市は強いリーダーシップでこの市町村にもない所だと思っていて、いろいろな所で羨ましがられていて、本当に真剣にやっているということで褒め言葉を我々現場のものはいただいている。この数字は、今地域移行室が真剣にやってくださっている成果が2年後、3年後に出てくると思うので、芸術もそうだが子ども達のやりたいスポーツをいろいろなところで出来て、好きになってやっていけるような環境を我々行政を含めた大人たちが作っていかねばならないと改めて思った。
委員長	今〇〇委員がおっしゃった要因分析の中の子どもが足を引く張る不安や人と比べられることが嫌、からかわれる不安などは大人の問題で、指導者がきちんと指導していくことだと思う。また、「支える」スポーツのところも Come100クラブがあって、指導者養成を長期的にやっていくということもあるので、子どもたちがスポーツをすることが嫌にならない環境が作られていくのではと思う。

〇〇委員	中学校部活動地域移行で子ども達がやりたくても活動場所に行けないという中で、村上市の希楽々というスポーツ団体は学校までバスで迎えに行き、体育館で宿題をさせた後に一緒にスポーツをするということを行っている。そういった形を取っていくことによって、子ども達のスポーツをする機会が週に1回2回と与えられればいいと思う。また、私も新産体育館で車いすバスケットボールの練習会を行っているが、お父さんお母さんを巻き込んで子ども達と一緒に車いすバスケットボールを楽しんでいただいて、子ども達を多く集めていくという形を取っている。そういった家族ぐるみで楽しめる環境を作ってあげられれば、スポーツをする人たちが増えていくのではと思う。
委員長	今ほど村上市の希楽々の紹介があったが、こちらは総合型地域スポーツクラブがバスを持っていて、うまく活用されている。免許返納などで実は高齢者も買い物難民になっていて、そういう方も村上市はバスを使っている。商業施設で買い物をして、そこで運動教室に参加する方などの送迎をしている。やはり送迎をきちんと整備するのはすごく大きいと思う。
〇〇委員	「育てる」スポーツのところは、長岡市スポーツ協会としてのスポーツの推進に関わらせていただいている中での評価がCということで大変申し訳なく感じている。その一方で、今の子ども達の外遊びが非常に少なくなっている。遊びから運動遊び、スポーツへ行くラインがなく、いきなりスポーツだとハードルが高いので、外遊びが充実することで小学生スポーツの運動人口は拡大すると思う。子どもの運動遊びが出来る環境整備も次の中学校や Come100クラブといったところでは非常に大事になってくる。スポーツ協会では週1回放課後子どもの運動クラブを38小学校区でやっているが、もっとできたらいいなと思う。あと、公園は子どもたちがいなくて非常に寂しい。公園を活用した運動ができたらいいと思う。今後の方向性についても、評価の軸を記録・順位重視から達成感・楽しさ重視への転換とあるが、非常に大事な視点。これをいかに事業化したり、スポーツ指導者のマインド変換させていくのが、これからの課題。あと「する」スポーツで評価がCで未達というのが悔し

	いという思いがある。スポーツ協会でも競技スポーツだけでなく、〇〇委員や〇〇委員とも協力しながら誰もが参加できるようなスポーツ教室を広めていきたい。一番は身近なコミュニティセンターや小中学校の体育館だと思う。ただリソースはあるが、どうやったらコミュニティ単位で広めていけるかというのが非常に難しい。地域でどのように誰でも参加できるスポーツを再設計していくか、設計してくれるコーディネーターがきちんといて、そこがこういうリソースと繋いでくれる仕組みが出来るともっと広がるのでは。我々もコミュニティセンターに話をしに行くが、そこでストップすることも多いので、推進計画をきちんと共有できるといいのではと思う。
委員長	先ほど長岡市総合計画も同時に進めているという話もあったが、〇〇委員からの話もあったが総合計画に反映してもらえるとありがたい。コミュニティはどうやって作っていくのか、その中で子ども達の運動遊びの環境をどう作っていくのかというところを挙げてもらえるといい。あと、いろんな自治体に行っているがこれだけ多くの課から出席されるのはなかなかない。いろんな課の方々がいるので共通の話題が出てくると課題的解決になるのでは。
事務局	「支える」スポーツの中での地域住民が自主的・主体的に推進する体制の図は初回の推進計画の時に私が作ったもので、当時市が進めていたコミュニティセンター単位の推進を図式化したもの。下からスポーツ振興課とスポーツ協会が行う支援、これが20年間あまり変わらなかった事に対して、少し責任を感じている。合併やいろいろな要因があったが、これらにとられない推進体制を考えていかないとジュニア期と呼ばれる小中学校から多世代にわたる「する」スポーツの実施率の向上にはつながらない。まだ正解が見えているわけではないが、この推進体制も評価できる部分も当然ある。ただ市町村合併後全て一律のやり方では今後の計画に当てはめるのは効果的ではない。コミュニティとして推進する体制も軸に置きながらそれぞれの地域ごとにアレンジをして推進体制を整えていくかというのはこれからも分析して計画の中に定めていく、それが一番大事なかなと思う。私自身もこの「支える」スポーツというのは、過去の計画の中でうまく整備できなかったなと個人的な思い

委員長	はある。 コミュニティを基盤とする考え方は、普通のスポーツ推進計画では実際ないので、それはすごく大事にしていきたい。あと、〇〇委員から話があった記録・順位重視から達成感・楽しさ重視への転換について、ぜひスポーツ協会でも競技力の表彰ではなく、達成感・楽しさの事業を行っている人たちへの表彰もしてもらえればいいなと思う。
〇〇委員	「する」スポーツのところですが、仕事の忙しさ、疲れているから出来ないという意識を変えたいと思っている。運動すると疲れが取れる、よく眠れる、よく食べられるというのが皆さんに伝われば、もっとスポーツや運動をしたいなという風に思ってもらえるのでは。癒すプログラムも入れるとすごくいいと思っている。これから頭が働くように会社の休み時間10分ストレッチをする、背骨を動かすと頭が働きだすというプログラムもあるので、会社と連携してそういう隙間時間にするといいのでは。スポーツとなるとハードルが高くなる感じがあるので、通勤を車から自転車にする、いつもより少し歩いてみる、そういったところから入っても、体を動かすととても気持ちがいいということに気づいてもらったり、例えばポイ活に繋がるようなものがあればモチベーションになると思う。全く運動していない方も普段の生活の中でこれならやってみようという風になると思うので、そういうアプローチもいいのでは。あと、今子どもが公園からいなくなったという話があったが、ボール遊びが全部禁止になっている。自分が子どもの頃はボールがあったら投げて走って取ってというようなことをやっていたので、今はスポーツが遠のいてしまったな、と残念な気持ち。以前子どもが柔道に参加したが、子どもが始めたから自分も始めたという親御さんが多かった。この状況はすごいなと思っていて、そういう風に繋げていけるともっと多世代に広がっていくのでは。
委員長	ここでも多世代というキーワードですね。子どもと親、おじいちゃんとおばあちゃんも含めて、多世代で活動出来る環境を作るというのは大事。そうするといろんな課題が解決出来るきっかけになる。あと、全国的にもそうだが公園で遊ぶ子どもは

	10年前は50％程度だったが、今は10％を切っている現状だそう。確かに公園で子ども達を見なくなったので、代わりになるものを作っていないといけない。あと、長岡市では企業に対して健康企業の認定のようなことをやっているか。
事務局	特に行っていない。
委員長	そういうのをやっていくといいと思う。
〇〇委員	以前に健康診断の後に、運動講座をやらせていただいたことがあった。健康診断を受けた後は、運動しなければという気持ちになる。健康診断は義務化されているので、気軽に出来る企画をすればいいと思う。
〇〇委員	子育ての駅は防災センター内にあり、芝生広場もある。バスケットゴールも2面あり、非常にボール遊びやスポーツをいい雰囲気ですることができる唯一の広場である。ただ、ボール遊びについて危ないからやめさせてほしいという声も乳幼児の保護者から最近多い。ここに勤めて約10年になるが、ここ3、4年とくに強い。先日も3連休だったが、ストライダーに乗っている子どもを止めてほしい、ボール遊びを止めてほしい、ただ走り回って追いかけてこをしているだけの子どもを止めてほしいという声をいただいた。子どもを怒りにいかず、いつか自分の子どもも走りまわるようになるから見ておくといいと説明した。親御さんは自分の子どもしか知らない、前の世代も知らないし、先の世代も見ることがないので、自分の子どもがはいはいしかしないと、いかに7歳の子どもがものすごい高いところから飛び降りたがることも、ボールがあつたら投げたくてしょうがないことも受け入れられないというのがある。簡単に禁止するのではなく、子どもはそういうものだよというのをどこかで発信できるといいと思う。屋根付広場の滑り台は、逆走を覚えるのが大体小学4年生、高い所に俺は登ったぞと言い始めるのは大体中学1年生、それを教えるのはさんざんやった高校生。自分の子どもの頃と一緒に、いろんな世代が混ざって遊ぶ風景が唯一見ることが出来る場所なので、なるべく制限をかけずにこのまま行きたいと思っている。一方でご意見もたくさんあるので、そういった発信をどこかで入れられれば、と思

	う。最初から急にバスケやサッカーをさせても途中で行かなくなったり、体験3回で心が折れてしまった子もいるので、放課後遊ぶ場所があればそういった機会も増えると思う。公園の使い方も禁止するのではなく、児童クラブさんとも合わせて外遊びをたくさん入れるようになっていくといいなと感じている。一方、「育てる」スポーツの要因分析であった内容は全部自分も感じる。きっかけは小学生の大縄跳び大会。大縄に入らなくて、回す役をやっていたが、個人的にすごく思い出に残っていてつらかったというのがあった。弱いだけとか不器用とか言われていた世代だが、今はこんなふうに変わっていくことに羨ましさを感じつつ、今ならば自分ももう少し跳べるようになってみたいかも、と思えるようになった。指導の皆さんが関わってくれているのを感じてすごく希望があるなと思っている。
委員長	ありがとうございました。今日いろいろな課題を指摘していただいた。多世代というのはいわゆる大人子どもではなく、幼児から高校生までのいろいろな子ども達もそう。保護者も学ぶことが出来る。それによって自分の子どもしか見えていなくて不安に思っていた親が不安解消できたりする場所を作ることが大事。あとは指導者。声をかけてくれる方々がいるのは大事なので、そういう環境を整えていくことが必要だと思う。
事務局	最後に補足であるが、市のスポーツ推進計画なので、どうしてもソフト寄りの推進施策がメインになってはいるが、現行計画でやはりハードの部分、公園の話も出たが環境整備も「支える」スポーツの一つの項目として施設環境の充実というのを入れ込んでいる。市町村合併をした長岡市においては、スポーツ施設という分類の中で106の施設がある。施設の老朽化が進んでいるものもあって、これからの人口減少を考えて全ての施設を維持修繕していくことはやはり難しい。残すべきところは残しながら、施設の適正配置を考えていく時期になってくる。本来スポーツの振興上、身近なところで気軽にできる環境を整えるのが一番いいが、なかなか出来なくなってくる状況がどの世代にも共通してくると思うので、ソフト、ハード両面から環境整備についても次の計画の中では考えていく必要がある。当然送迎などの問題も出たが、それを補う将来的なものも踏まえながら、どう環境整備を整えていくのかというのも、もう少し膨

委員長	らませていく必要がある。 今はどこのスポーツ施設も老朽化していて、それを改修するには予算も限られているなどいろいろな問題があるので、何か変える仕組みを考えていかないといけない。例えば民間のタクシー会社と協力して子どもの送迎をするなど、今は ICT が盛んになってきているので、そういう仕組みを作っていかないと、昭和の時代に作ったものをさらに改修して、ということは出来なくなってくる。 （３）現行計画の進捗評価について、他にご意見はないでしょうか。 （意見なし） 報告事項については以上とします。 以上で、会議を終わります。
９ 会議資料	別添のとおり